

**第2回**  
**名寄市総合計画策定審議会(教育文化スポーツ部会)**  
**平成23年4月21日(木)18:30 名寄市役所名寄庁舎4F会議室**

1、開会

2、部会長挨拶

3、議事

(1) 前期計画事業(点検シート)について(担当課)

(2) 前期事業の継続について

① ソフト事業

1、社会教育5カ年計画    2、新聞マイクロ化    6、幼小連携    8、教育内容  
9、健康教育と安全    11、大学点検・評価    12、食育    13、家庭教育  
15、青少年健全育成    16、教育相談

② ハード事業

1、文セン改修    4、展示機能強化    14、風連スキー場改修・撤去    17、  
放課後児童クラブ    18、市民ホール

③ 協議が必要な事業

7、適正配置と学校施設整備(名寄市街地区公立学校統廃合検討委員会)

10、大学図書館、大講堂(市立図書館)

(3) その他

第3回 部会 平成23年5月 日( )

名寄市総合計画 前期事業の点検  
「教育の主要施策」の前期計画点検シートの概要

- ・生涯学習社会の形成
  - 1 (生涯学習課) 社会教育 5 年計画 H25~29、文セン改修
  - 2 (市立図書館) 新聞資料マイクロ化 北都新聞マイクロ化
  - 3 (市立図書館) 移動図書館車更新 終了
  - 4 (北国博物館) 映像関連・施設整備終了 展示機能強化事業
  - 5 (市立天文台) 天体観測を活かしたまちづくり 市立天文台建設 終了
  
- ・幼児教育の推進
  - 6 (こども未来課) 幼小連携 「子ども・子育て新システム」、幼保一元化
- ・小中学校教育の充実
  - 7 (教育課題特命担当) 安心安全な学校作り 適正配置と学校施設整備
  - 8 (学校教育課) 教育内容の充実 学力・体力向上、質的向上、相談体制、特別支援
  - 9 (学校教育課) 健康教育と安全確保 危機管理の強化、安全教育推進
- ・大学教育の充実
  - 10 (市立大学総務課) 施設・設備の整備 大学図書館、大講堂
  - 11 (市立大学総務課) 自己点検評価、第三者評価 継続
- ・食育の推進
  - 12 (学校給食センター) 各分野の食育推進 継続
- ・家庭教育の推進
  - 13 (生涯学習課) 家庭教育の推進 継続
- ・生涯スポーツの振興
  - 14 (生涯学習課) 生涯スポーツの振興 風連スキー場リフト改修・ジャンプ台撤去
  
- ・青少年の健全育成
  - 15 (生涯学習課) 青少年の健全育成 継続
  - 16 (児童センター) 教育相談センターの充実 継続
  - 17 (児童センター) 放課後児童クラブ増設 継続
  
- ・地域文化の化粧と創造
  - 18 (生涯学習課) 地域文化の継承と創造 市民ホール H23~26

別添 教育文化スポーツ部会発言内容（平成 23 年 4 月 21 日）

（開会）早崎課長

（挨拶）檜山部会長

— 以降、檜山部会長の司会進行 —

（１）前期計画事業（点検シート）について

別紙『名寄市総合計画 前期事業の点検「教育の主要事業」の前期計画点検シートの概要』の掲載順に各担当課から説明。

- ・生涯学習社会の形成・・・粕谷生涯学習課長・間所図書館長・鈴木教育部長・宮下天文台長説明
- ・幼児教育の推進・・・・・・・・次回説明
- ・小中学校教育の充実・・・河合学校教育課主幹・大久保教育部参事説明
- ・大学教育の充実・・・・・・・・丸箒大学教務課長・田辺大学総務課長説明
- ・食育の推進・・・・・・・・塩田学校給食センター所長説明
- ・家庭教育の推進・・・・・・・・粕谷生涯学習課長説明
- ・生涯スポーツの振興・・・粕谷生涯学習課長説明
- ・青少年の健全育成・・・・・・・・粕谷生涯学習課長・石橋児童センター館長説明
- ・地域文化の継承と創造・・・粕谷生涯学習課長説明

（２）前期事業の継続について

①ソフト事業

１ 社会教育 5 力年計画

（質疑応答）なし

２ 新聞マイクロフィルム化

（質疑応答）

委員：DVD化は実施しないとなっているが、デジタル化の方がランニングコストは安いのではないか。DVDでなくてもデジタル化の検討は？

間所館長：DVDは過渡期であり、あと何十年もあるとは限らない。フィルムであれば何十年後も見ることができるためフィルム化とした。デジタル化については他の図書館の実態を把握し、経費も安く確実な保存方法を模索していきたい。

委員：今回の津波で流されたところもデジタル化していた戸籍もあったので、何かあったときの対応も含めて保存方法の検討をお願いしたい。

委員：書籍も電子書籍にすれば、大学に大きい図書館を建てなくてもパソコンで調べたら見れるとか、デジタル化した方が見やすいのではないか。専門書籍とかがあって電子書籍がなければ、紙をスキャンしてPDFにしておけば大きな図書館を作らなくてもデジタル化で対応できるのではないか。

委員：大学の図書館は資料が少ないため図書室ではないのかと言われている。大学生としては専門性を追求することもあり、本の種類が少なすぎて厳しい。レポートを書くことや自分で学びたいことを学べない状況にあるので図書館はほしい。

委員：マイクロフィルムになるとマイクロフィルムリーダーなどの専用の機械が必要となると思

うが、マイクロフィルムリーダーは図書館にしか設置されないのか？マイクロフィルムにしてしまうと外に持ち出した時に読み取る機械がないと見れないと思うのだが。

間所館長：フィルムの貸出は禁止している。希少な資料のためコピーをしてもらうしかない。

委員：電子書籍も考えていかなければならないが、著作権の問題もあり難しいのかもしれない。

## 6 幼小連携

鈴木部長：担当課が来ていないため先送りとしたい。

## 8 教育内容

(質疑応答)

委員：教育はすぐ目に見えるような成果が表れるものではない。継続していくことが力になってくると思うので、継続していくことが大切だと思う。

委員：「すくらむ」とは何か？

大久保参事：個別の特別支援として、発達障がいやアトピーを持つ子を支援していくための記録である。1日の出来事などを記録し、学年が変わったら次の担任に渡したり、病院に通ったときに見せたりしている。

鈴木部長：母子手帳の幼稚園・小学生版のようなものである。

委員：いつからの取り組みか？

大久保参事：平成19年度から始まり、名寄市では平成20年度から取り組んでいる。

委員：素晴らしい取り組みだと思う。後期計画の考え方には「活用推進に努める」とあるが、発達障がいなどのタイトルをつけてしまうと親が取り組みづらいのではないか。気楽な感じで記録をつけていく方が利用されやすいのではないか。また、「学校に入るとそういうものがある」ことを広めていけば活用されるのではないか。

大久保参事：母子手帳の中に「すくらむ」の一部を貼っている。また、リーフレットも作成中であり、3歳以上に配布する予定となっている。「すくらむ」は文部科学省との関係があつて、発達障がいを基本とした「すくらむ」となっているが、アトピーなども活用できないかと幅を広げていきたい。

委員：母子手帳がずっとあつたらいいと思う。一人一人、一冊の成長記録があるといい。

委員：アレルギーも増えているのであるといい。

委員：担当部署との連携が今後必要となってくると思う。

大久保参事：国のレベルでいくと文科省となるが、市では保健センター、幼稚園、保育所、小学校を組織した専門部会の中で交流しましょうとやっている。

委員：予防接種も含めて一人一人が記載されたものがあるといい。

## 9 健康教育と安全

### 11 大学点検・評価

(質疑応答) なし

### 12 食育

鈴木部長：本日、2枚、前期計画点検シートを配布させていただいた。この事業は健康福祉部と経済部農務課との関わりもある。また、先ほど説明させていただいた給食センターと3者に関わりがあり、③の「協議が必要な事業」として次回協議いただきたい。

### 13 家庭教育

#### (質疑応答)

委員：育てる側の親、教師、地域の人たちの育ちの場があるといい。小中学生対象の食育とかいろんな取り組みはされているが、育てる側がもっと刺激し合うとか、学び合う場がほしい。教師だけの研修会や特別支援だけの学習会ではなく、もっと広い意味で育てる人たちが育つ場がほしい。親も教師も育てる側として同じであるが、モンスターペアレントやクレーマーのような対立ではなく、親も教師も育てる側として一緒に意識を持ってないものか。具体的に何がよいのか思いつかないのだが、どうすれば育て合う関係になれるだろうか。

粕谷課長：家庭教育支援講座などに来ていただける親は関心のある方と思っている。それ以外の親に対するアプローチとしては1歳児健診や2歳児健診で家庭教育に取り組むことが一つの事業である。保健センターでは健診時に保育士を呼んで親子で遊ぶ事業や絵本の読み聞かせを行っている。また、北海道教育委員会で作っている家庭教育のリーフレットを配布している。生涯学習課としては学校教育との連携の中で就学時健診の時にそうした事業に取り組んでいる。

いろんなところでいろんな事業を行っており、市民団体もいろんな会が実施しているが、双方知らないという実態である。まずは連携や情報提供、認知し合うことから始めていきたい。

委員：そういう取り組みは大事だと思う。大人塾みたいなものができればいい。

委員：これはすぐに答えが出るものではないと思うので、これから話し合っていくということを考えていければいいと思う。

委員：そういうものを企画してやってくださいというものではなく、どうすれば大人たちが育ち合っていけるかを話し合える場が持てればいい。

委員：どんなところでどんな人がどんなことをやっているのを行政が取りまとめるのか？

粕谷課長：行政の持っているアンテナでどういう団体があるのかをまず把握していきたい。まずは取りまとめを行い、できれば連絡会議でどういう活動をしているのかを調べあわせしていきたい。

委員：福祉で冊子ができたばかりである。そのようなものになるのか？

粕谷課長：福祉は福祉で、社会教育は社会教育でいろんな団体があり、それらをまずは把握していきたい。

委員：福祉で作った冊子はわかりやすくいい。

委員：まずは点と点を結ぶことから始めればいい。そこから何ができるかを考えていけばいい。

委員：話を聞く機会があるといいと思う。それぞれの活動を出し合って一緒にやれることが見えてくる。

委員：後期計画にはそうした必要性を盛り込んでいただければと思う。

### 15 青少年健全育成

#### (質疑応答)

委員：へっちゃLANDで大学生がお手伝いをしている。へっちゃLANDは小学生の夏休みにやっているが、大学生は試験の直前となっており、一つの課題である。

委員：へっちゃLANDには毎年2～3人ぐらいは参加しているが、前期試験を落とす勢いで参加している。でも参加した先輩からはおもしろいと聞いている。時期をずらすことはできないか。

粕谷課長：なるべく日程がぶつからないようにしているが、8月になるとお祭りやお盆が来てしまう。平成23年度の日程でいけば、大学のテストが8月と聞いているため、7月の末と考えている。総合計画では、大学生のボランティアだけではなく、指導者や関係者の体制づくりが必要だと考えている。子ども会についても年に4回ぐらいキャンプも含めた事業をやっているが、そこにもリーダー

一等の体制づくりを継続していくことが課題となっている。

委員：大学生と子どもたちとの関わりは大事だが、風連では杉並との交流事業で高校生がボランティアで参加していた。名寄にはないのか？

委員：NACがあった。

粕谷課長：これから育てていきたいと考えている。

委員：大学生のボランティア育成だけでなく、大学生が諸行事に参加していただくことも大切であり、大学生が出やすいように市と大学で話し合っ、中学生や高校生と大学生が交流していく場をつくっていくことが課題ではないか。

委員：延べ人数でいくと大学生1人1回は地域の活動に参加している。実際には1回も行ったことのない人もいるが、割合としては1人1回。高校生となると部活があつて大変ではないか。

委員：今の高校生は部活にみんな入っているのか。生徒も部活数も減っている。部活動に関わっていない人を巻き込めないものか。

## 16 教育相談

(質疑応答) なし

### ②ハード事業

#### 1 文セン改修

(質疑応答)

委員：現在、文化センターを改修しているが、市民ホールができたときに文化センターをどのようにするのかは決まっているのか？

粕谷課長：今の文化センターをどう機能させていくのかは検証が必要となる。例えば、市民ホールを建設することによって文化センターの管理人室は不要となる。ただ、市民ホールの作り方によっては必要になる場合もある。

委員：隣に建設となると文化センターとの行き来はどうなるのか？また、市民ホールの規模は？

粕谷課長：渡り廊下による行き来となる。市民ホールの規模は市民懇話会で500席、800席という意見が出ている。

委員：朝日サンライズホールでは、300席では満席になつても赤字になると聞いているので、検討をお願いしたい。

#### 4 展示機能強化

(質疑応答)

委員：風連歴史民俗資料館の現状は？展示室の一部は名寄に移されたという話も聞いたが。

鈴木部長：風連歴史民俗資料館の外観は米俵をモチーフにしている。今までは風連福祉センターの陰で見えなかったが、風連福祉センター解体後は国道からよく見えるようになった。開館については風連福祉センターがなくなり予約でオープンする形となっている。突然の来館者については児童会館の職員で対応している。歴史民俗資料館の内容は風連の歴史を展示したものであり、展示品については移していない。

#### 14 風連スキー場改修・撤去

(意見)

委員：小さい子どもが親と一緒に上まで上がっている。どこかのスキー場で50mぐらいのコンベアがあった。ああいうのがあればいいと思う。

#### 17 放課後児童クラブ

(質疑応答)

委員：児童クラブとは何をするところか？

石橋館長：親が共働き等で留守になる家庭の子どもを預ける場である。

委員：風連児童会館と児童クラブを分離、有料化したとなっているのはどういうことか？

石橋館長：国の方針で風連児童クラブと風連児童会館の機能を分けた。風連福祉センター解体後に残した建物を児童クラブで使用し、従来の児童会館は自由に出入りできる児童会館として分けた。名寄市では児童クラブは有料となっており、合併特例区の期限が切れた今年度は経過措置として3,000円、平成24年度から4,000円と設定している。

委員：児童会館と児童クラブの児童の分け方はどのようにしているのか？

石橋館長：児童クラブに入会するためには親の雇用証明書を提出していただいている。児童会館は本来であれば一度帰宅してから来館していただくのだが、風連児童会館については学校から直接来館してもいいことにしている。

委員：児童クラブの会員数は？

石橋館長：平成22年度には54人いたが、今年度は27人の会員がいる。

#### 18 市民ホール

(質疑応答)

委員：市民会館はどうするのか？

委員：老朽化のため解体する。

#### ③協議が必要な事業

鈴木部長：次の事業については協議が必要なため次回としたい。

7の適正配置と学校施設整備については、すでに平成21年度に基本方針が出ている。今年は名寄市街地区公立学校統廃合検討委員会と呼ばれる、市街地区の学校5校を4校にするための検討委員会を立ち上げて1年間かけて議論していく。後期計画の中にも含まれるものであるが、課題が大きいため、総合計画策定審議会ではなく、検討委員会の場で議論させていただくことを了承願いたい。

10の大学図書館と市立図書館の必要性や場所の問題については次回お願いしたい。

食育については、経済部で策定した食育推進計画があり、今回は関係部署から説明をさせていただきたい。

#### (3) その他

早崎課長：次回の部会は5月17日(火)を予定している。時間は18時30分から。